

令和4年度 家庭総合2年 シラバス

科目	家庭総合	単位	2	対象	2学年・1～6組
目標	<p>・人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>				
学習内容	<p>学習内容</p> <p>①男女が協力して家庭生活を営むために必要な家庭生活全般に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>②国際化・情報化などの社会の変化に適切に対応して主体的に生活する事ができる能力と態度を習得する。</p> <p>③実習項目</p> <p>〈被服製作実習〉</p> <p>1. エプロン製作 2. その他実験</p> <p>〈その他の実習〉</p> <p>1. 妊婦疑似体験 2. 高齢者疑似体験 3. ホームプロジェクトの実施・発表</p> <p>4. ロールプレイなど</p>				
学習のワンポイントアドバイス	<p>学習のワンポイントアドバイス</p> <p>1. 日頃からマスコミ報道に触れて社会の動きを把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む。</p> <p>2. 授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活の改善・充実に努める。</p> <p>3. 学習に到達目標を念頭において、新しい社会の動きに即応できる力を身につける。</p> <p>4. 課題などの提出物については、忘れることなく必ず期限内に提出する。</p> <p>5. 実習・実験に際しては、無駄話を差し控えて安全に協力して進める。また、学校内で行うこととし、家庭に持ち帰っての作業をしない。</p>				
評価の方法	<p>評価の方法</p> <p>テスト（60％）</p> <p>課題・提出物・授業（実習）態度（40％）</p> <p>ファイルは提出状況と記入内容に重点を置いて評価する。</p>				
使用する教科書・教材等	<p>使用する教科書・教材等</p> <p>1. 教科書 東京書籍「自立・共生・創造」</p> <p>2. 学習ノート</p>				

令和4年度 家庭総合3年 シラバス

科目	家庭総合	単位	2	対象	3学年・1～6組
目標	<p>・人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。</p>				
<p>学習内容</p> <p>&lt;食生活 ・住生活 ・家庭経済&gt;</p> <p>①男女が協力して家庭生活を営むために必要な家庭生活全般に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>②国際化・情報化などの社会の変化に適切に対応して主体的に生活する事ができる能力と態度を習得する。</p> <p>③実習項目</p> <p>〈調理実習〉</p> <p>1. 和食どんぶりの献立    2. 手早くできる中華料理献立    3. 洋風献立</p> <p>4. 軽食・おやつ            5. 琉球料理            6. 自由献立</p>					
<p>学習のワンポイントアドバイス</p> <p>1. 日頃からマスコミ報道に触れて社会の動きを把握するとともに、生活情報を収集し、生活課題に取り組む。</p> <p>2. 授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で生かし、日々の生活の改善・充実に努める。</p> <p>3. 学習に到達目標を念頭において、新しい社会の動きに即応できる力を身につける。</p> <p>4. 課題などの提出物については、忘れることなく必ず期限内に提出する。</p> <p>5. 実習・実験に際しては、無駄話を差し控えて安全に協力して進める。また、学校内で行うこととし、家庭に持ち帰っての作業をしない。</p>					
<p>評価の方法</p> <p>テスト（60%）</p> <p>課題・提出物・授業（実習）態度（40%）</p> <p>ファイルは提出状況と記入内容に重点を置いて評価する。</p>					
<p>使用する教科書・教材等</p> <p>1. 教科書 東京書籍「自立・共生・創造」</p> <p>2. 同 準拠学習ノート</p>					

令和4年度 子どもの発達と保育 シラバス

科目	子どもの発達と保育	単 位	2	対象	3学年；1～6組 2学年；3，5，6組
目標	子どもの発達の特徴や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。				
<p>学習内容</p> <p>&lt;食生活 ・住生活 ・家庭経済&gt;</p> <p>①子どもの発達の特徴や発達過程、保育に関する知識と技術を習得する。</p> <p>②乳幼児が人間の発達の基礎を培う時期であることから、この時期の重要性を理解し、発達と環境の関係、及び乳幼児の発達過程や特徴には個人差があることも理解する。</p> <p>③実習等を通して、保育に関する知識と技術を習得する。</p> <p>〈実習〉</p> <p>1. おりがみ 2. 幼児玩具 3. 離乳食 4. こどものおやつ</p>					
<p>学習のワンポイントアドバイス</p> <p>1. 日頃からマスコミ報道に触れて社会の動きを把握するとともに、子どもに関する今日の状況について考えるなど、子どもを取り巻く環境について普段から関心を持つ。</p> <p>2. 授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で活かしたり、将来活かせるよう、子どもとふれあう機会を自主的積極的に持つように努める。</p> <p>3. 学習に到達目標を念頭において、子どもを理解し対応できる力を身につける。</p> <p>4. 課題などの提出物については、忘れることなく必ず期限内に提出する。</p> <p>5. 実習・実験に際しては、無駄話を差し控えて安全に協力して進める。また、学校内で行うこととし、家庭に持ち帰っての作業をしない。</p>					
<p>評価の方法</p> <p>テスト（50%）</p> <p>課題・提出物・授業（実習）態度（50%）</p> <p>ファイルは提出状況と記入内容に重点を置いて評価する。</p>					
<p>使用する教科書・教材等</p> <p>1. 教科書 実教出版「子どもの」の発達と保育</p>					

科目名 実用調理	単位数	2単位
	学科・学年・学級	普通科 3学年 1組～6組
<b>学習の到達目標</b> ①「家庭総合」における学習を基礎として、食物に関する基本的な知識と技術を身につけ、時代に即した合理的な食生活の運営ができるようにする。 ②実験・実習を多く取り入れ、家庭生活を合理的に営む能力と実践的程度を養う。		

月	学習内容	学習のねらい	課題 提出物等	考 査
4	実用調理を学ぶにあたって ・食べることの意義と役割 調理の基本 1) 調理の目的 2) 調理と味 3) 調理の手法	・1年間の学習内容と学習目標 ・調理の目的を理解し、調理の手法の基礎理論と食品の調理上の特性を把握する。	実習1 ・ご飯 ・だし巻き卵 ・すまし汁	期 末 考 査
5	献立と調理 ①日本料理	・我が国の環境と食文化について理解する。 ・日本料理の食事様式について理解する。 ・炊飯の方法、出汁の取り方、和え物や酢の物の取り扱いについて理解する。	実習2 ・グラタン ・サラダ	
6	②西洋料理	・西洋料理の特徴、献立、食事様式について理解する。 ・中華料理の特徴、献立、食事様式について理解する。	実習3 ・餃子	
7	③中華料理			
9	④コンテスト料理挑戦	夏休み中に考案した料理をもとに各種コンテストに挑戦する	実習4 作品試作 実習5 作品完成 実習6 ・ピザ 実習7 ミートソースパスタ 実習8 スコーン 実習9 クリスマスメニュー	
10	⑤防災食	・防災を学ぶとともに、そこでの食事について考える		
11	⑥パン	・パンやピザの発酵について理解する。 ・調味料、ハーブ類、チーズ等について理解する。		
12	⑦手軽に作れる食事やおやつ	・日々の生活の中で手軽に作れる食事やおやつ作りについて学び、実践する力を養う。		
1	⑧食文化・行事食	・各国の食文化および、年中行事料理について理解する。	実習10 ちらしずし	
2		⑨1年のまとめ		

評価方法

1 期末考査、授業の課題プリント、レポート、授業中の発表や態度、学習活動への参加姿勢や態度を総合して100点満点で評価する。
2 評価の内訳は、期末考査が60%程度、提出物・学習態度が40%程度。

学習方法

1 授業で身につけた知識や技術を日常生活のなかで生かし、日々の生活の改善・充実に努める。
2 課題などの提出物については、忘れることなく必ず期限内に提出する。
3 実習内容については、諸事情により入れ替えや献立を変更をする場合がある。



令和4年度 宜野湾高等学校(家庭科) 手芸(3年選択)シラバス

科目	手芸	単位	2	対象	3学年・1～6組
目標	<p>①手芸の種類と変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。</p> <p>②もの作りの楽しさを体感し、創造的に製作する能力と態度を育てる。</p>				
学習内容					
<p>①手芸全般に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>②学習した技術を活かして、手芸品を制作する。</p>					
③実習項目					
4～5月	1. 基礎縫い (並み縫い・半返し縫い・本返し縫い・まつり縫い)				
	2. 布やフェルトを使用した小物製作Ⅰ				
6～7月	3. ハーフパンツ制作				
9～10月	4. 布やフェルトを使用した小物製作Ⅱ				
11～1月	5. 各種手芸の技法				
	①織物(手織り) ②編み物(棒針編み・かぎ編み) ③刺繍(日本刺繍)				
	6. 自由作品製作				
学習のワンポイントアドバイス					
1. 授業で身につけた知識や技術を日常生活の中で生かす。					
2. 課題などの提出物については、忘れることなく必ず期限内に提出する。					
5. 実習・実験に際しては、無駄話を差し控えて安全に協力して進める。また、学校内で行うこととし、家庭に持ち帰っての作業をしない。					
評価方法					
1 作品製作、活動状況、プリントなどの提出物で総合的に評価する。					
2 評価の内訳は、作品製作・提出物が80%程度、活動状況20%程度。					